

《 自分を見つめる場を設定した指導過程 》

段階	主 なる 活 動 〔自分を見つめる場〕	主体的に自分を見つめさせるための指導の手立て
事前	○ ねらいとする価値について意識し、自分の実践についても意識する。 ○ 他の教育活動における体験等をもとに価値内容にかかわる課題を認識する。	・価値に応じた事前の実態調査（個を生かす実態把握） ・他の教育活動における実践（がんばりカード、日記、作文などの表現活動）
導入	◎ ねらいとする価値への方向づけ ○ ねらいとする価値に興味・関心を持つ。 ○ 主題で扱う問題の発見や意識化により、課題意識を明確にする。	・実態調査の活用を通して。 ・他の教育活動との関連（表現したものの発表や話し合いを通して） ・各目の課題の確認等を通して。
展開（前段）	◎ 中心資料を通した価値の追求把握 ○ 資料をもとにした話し合い等を通して、多様な価値観との出会いや比較により見つめる。 ・（資料をもとにした課題意識の追求を通して） ○ 他の教育活動における体験等を取り入れることにより見つめる。	・学年差の配慮を通して。（資料提示の工夫を通して） （発問の工夫を通して） ・標榜的板書を通して。 ・体験を通して。（役扮演、動作化） 話し合い活動を通して。 ・書く活動を通して。 ・他の教育活動の豊かな体験的活動の発表等を通して。
展開（後段）	◎ 今までの自分を主体的に内省 ○ 資料から離れ、話し合ったことをもとに、今までの自分の道徳的な考え方や感じ方や行為について見つめる。 ○ より多様な高い価値に照らし、新しい考え方の発見（新しい課題）や心の動きを見つめる。	・書く活動を通して。（道徳シートの活用） （作文、感想文、手紙） ・板書事項の活用を通して。 ・主人公の生き方や考え方との比較等を通して。
終末	◎ ねらいとする道徳的価値についての整理・まとめ ○ 本時の価値を担任の語等をもとに主体的に受け止め、自分を見つめ直す。 ○ 感動と意欲の中に課題意識を持つ。	・教師の体験や説話等を通して。（格言、作文等） 手紙を通して。 （保護者や地域の人々等） ・視聴を通して。（VTR等）
事後	○ 道徳実践への意欲化、態度化、行動化を図る。 ・他の教育活動での道徳的価値の実践 ・家庭、地域との連携	・他の教育活動における実践（がんばりカード、日記、作文などの表現活動） ・道徳だより、学級だより

(2) 多様な指導方法を工夫する

「終末」の順序で構想してみらな
ど、各段階でのねらいや時間を考
慮した柔軟な授業づくりにより努め
る。
○ 指導過程を道徳の時間で全てや
ろうとしないで、事前・事後指導
の時間も考えて他の教育活動と関
連付けを図るなど弾力的に取り組
む。
○ 一つの内容、項目に関連する主
題を一つの単元のようなとらえ方
をし、各主題の指導の重点や発展
性を明確にして、指導内容が児童
生徒一人一人に身につくよう工夫
する。

し合い活動の導入

児童生徒の側に立つた授業づくり
では、従来の指導方法を見直し、児
童生徒が主体的に取り組める学習活
動となるよう吟味し、適切に取り入
れることが望まれる。
○ 先行オーガナイザー法（教育セ
ンターの研究成果による）など資
料提示の工夫や授業の活性化につ
ながるモラルジレンマ資料の活用
○ 児童生徒の道徳的価値観をゆさ
ぶり、多様な価値観を引き出す発
問の工夫
○ パネルディスプレイやバス
セッション、ダイベートなど児童
生徒が意欲をもって取り組める話

(2) 環境と道徳教育との関連

○ 豊かな人間関係を基盤とした
様々な学習活動や奉仕等の体験活
動の中で、学級や集団のために尽
くす活動や機会があるか。
○ 学校や学級の支持的風土の中
で、他を思いやる機会があるか。
○ 道徳的な環境や豊かな体験活動
の中で、感動する場や機会がある
か。
○ 豊かな人間関係を基盤とした
様々な学習活動や奉仕等の体験活
動の中で、学級や集団のために尽
くす活動や機会があるか。

○ 地域での奉仕活動などの実施

○ 道徳教育推進委員会などの設置
と実行性の高い計画立案、実践
○ 道徳の時間の参観や事後の話し
合いなど道徳教育についての理解
を得る企画
○ 道徳だよりなどの広報活動
○ 道徳教育推進委員会などの設置
と実行性の高い計画立案、実践
○ 道徳の時間の参観や事後の話し
合いなど道徳教育についての理解
を得る企画

三、豊かな体験の場の設定

学校教育全体で実践される豊かな
体験活動は、それぞれに独自のねら
いを持っている。それらのねらいを
道徳との価値内容とのかかわりでと
らえ直しておくことは、一人一人の
よさや可能性を生かし、育てる上で
重要になる。豊かな体験活動は道徳
的課題が浮き彫りにされたり、内面
的な自覚がより強められたりするか
らである。
(1) 道徳的価値内容との関連
四つの視点（自分自身に関するこ
と・他の人とのかかわりに関するこ
と・自然や崇高なものとのかかわり
に関するこ）と集団や社会とのかかわ
りに関すること）と体験活動の関連
を見直し、よさや可能性を生かし育
てる場が確保されているか見直す。
○ 道徳の時間において、多様な指
導過程により真剣に自分自身を見
つめる場があるか。

学級や学校環境が児童生徒の道徳
性の発達に与える影響は大きく、人
間・空間・時間の三間の環境の整備
充実が努めることが大切である。
○ 人間関係の充実……教師と児童
生徒との尊敬と信頼関係を基盤
に、児童生徒相互の認め・助け・
励まし・学び合う場と機会を積極
的に設ける。
○ 教室などの整備……環境美化や
整理整頓に自主的に取り組む勤労
体験活動や、作品などの掲示や展
示を通して愛校心や向学心を育て
る。
○ その他の工夫……言語環境の
整備 ● 道徳的な学習情報の掲示
● 学校や学級の図書充実 ● 美
的な情操を養うための環境整備
(3) 家庭や地域社会との連携
道徳教育は、児童生徒の日常生活
のあらゆる機会や場において行われ
てこそ十分な成果が期待できる。
その際、家庭や地域社会における
健全育成に関連性と一貫性を確立し
ておく必要がある。
○ 道徳だよりなどの広報活動
○ 道徳教育推進委員会などの設置
と実行性の高い計画立案、実践
○ 道徳の時間の参観や事後の話し
合いなど道徳教育についての理解
を得る企画